

## 皆伐後に萌芽更新したウバメガシの成長に対する下刈りと芽かきの効果

中森由美子<sup>1)</sup>・瀧井忠人<sup>2)</sup>・栗山 崇<sup>3)</sup>・宇津裕喜<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 和歌山県農林水産総合技術センター 林業試験場

<sup>2)</sup> 和歌山県日高振興局

<sup>3)</sup> 田辺市役所

## Effects of Weeding and Thinning of Coppice Shoot on the Growth in *Quercus phillyraeoides* Regenerated by Sprouting After Clear Cutting

Yumiko Nakamori<sup>1)</sup>, Tadato Takii<sup>2)</sup>, Takashi Kuriyama<sup>3)</sup> and Hiroki Uzu<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Forestry Experiment Station, Wakayama Research Center of Agriculture, Forestry and Fisheries, Kamitonda 649-2103.

<sup>2)</sup> Wakayama Prefectural Hidaka Promotions Bureau, Gobo 644-0011.

<sup>3)</sup> Tanabe City, Tanabe 646-1192

### 摘 要

皆伐後に萌芽更新したウバメガシの初期保育手法を検討するため、伐採後経過年数が1, 2, 5年と異なる3つの調査地(順に谷川, 竹藪, 石神)において、下刈りと芽かき(萌芽枝整理)を行い、下刈り区, 芽かき・下刈り区, 無処理区を設け、作業後4年間の萌芽枝の成長について解析を行った。作業後4年間の萌芽枝の成長は、調査地と試験区間で異なった。下刈り区と無処理区の成長を比較すると、樹高成長は全調査地とも差異はみられず、根元径成長は、竹藪, 石神の下刈り区で高かった。一方、今回の試験では、芽かきの明瞭な効果は検出されなかった。本試験から、下刈りは、伐採後2年以上経過した林分におけるウバメガシの根元径成長に効果を示すことが明らかとなった。皆伐後にウバメガシが萌芽更新した林地において、保育作業を検討する場合には、周囲の植生の繁茂状況を見極めた上で、伐採後2年から5年の間に、下刈りを行うことが必要ではないかと考える。